

植物管理室では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

#### コケの栽培に取り組んでいます

温室内のスペースを利用し、多様用途に対応できるように、コケの栽培を試験的に始めました。



ベンチの上に、ブロックを積み重ね、いろいろなコケを置いてみました。春になってどんな風に定着していくか、観察します。

コンクリートの枠には、砂を敷き詰め、コケを植え込んでいきました。乾燥しないように自動散水装置でミストが出るように設定しています。



コケ植物は、維管束を持たず、胞子でふえる陸上植物です。日本では、庭園や盆栽で利用されてきました。園内をよく観察してみると、さまざまな場所でコケを見つけることができます。



落ち葉 堆肥置き場

#### 落ち葉 堆肥置き場 完成

自然環境保全専門委員会により1月に植物管理室内に落ち葉の処理施設が完成しました。これまで廃棄されていたキャンパス内の落ち葉をここに集約し堆肥化することで、キャンパスの美化と資源の有効利用に役立てようとしています。作られた堆肥は、学内の樹木を育てるために利用する計画です。今後は、秋の落ち葉集めにも楽しみが出てきます。

#### チューリップ球根の植え付け



球根のまわりには、パンジーの苗を植え付けました。これらの苗は、植物管理室において、育てられたものです。

12月9日のお昼時間に、教職員・学生のボランティア20名により、中央図書館前花壇にチューリップの球根の植え付け作業を行いました。4月の始業頃、色とりどりの花が咲きます。

#### 栽培実習・収穫編



この実習を通して、植物を育てることの難しさ、収穫したときの喜びを学ぶことが出来ました。

この講座も今回で18回目です。春コース・秋コースにてたくさんの野菜作りを体験しました。収穫した野菜は、楽しく調理をしてみんなで試食を行いました。自然に感謝!



#### 園内の冬景色



この冬は暖冬といわれ、昨年末は暖かい日が続きましたが、1月に入り、寒波が訪れ、園内もしっかり雪景色となりました。雪はしばらくしてとけましたが、まだまだ寒さは続きそうです。生態実験園では、樹木の新芽が寒さに耐えながら春を待っています。



薄氷の張った実験園の ため池



園内の湿地や水田では、1月から3月にかけてニホンアカガエルの産卵が始まります。

#### 園内の樹木

##### サクラバハ/Nキ *Alnus trabeculosa*

Hand-Mazz



カバ/キハ/Nキ属 本州(関東以西)、九州に自生する落葉高木。湿地にまれに生える。葉がサクラに似ている。花期は2~3月で雌雄同株。準絶滅危惧種。

#### 園内の樹木

##### ヤマコウバシ *Lindera glauca*



クス/キ科クロモジ属。山形県以西の本州、四国、九州に自生する落葉低木。葉を揉むと芳香がある。枯れた葉が冬でも落葉せずに残る。枯れた葉は、春に花が咲き新芽が出たあとに入れ替わります。



【お問い合わせ先】

広島大学理学研究科  
植物管理室

TEL:082-422-7111  
(内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp